成果の説明書

(氏名)　名和賢美	(学部)　経済学部

1　重要事項

2023 年度に最も力を注いだのは、前年度に引き続き、「論理的表現力と批判的思考力を主軸とした市民教育プログラム構築に向けた調査研究」であり、関連する教育研究の成果等の概要は、以下の通りである。

（1）高等教育での教育研究：経済学部教養教育委員会日本語部会の部会長（通年）

経済学部初年次必修科目「日本語リテラシーⅠ・Ⅱ」の授業内容・授業方法・成績評価方法などの検討および担当者選定などを逐条審議する部会を定期的に主宰した。さらに、以下の３点の編集・作成作業にも携わった。

『「日本語リテラシーⅡ」指導要領 2023 年度版』（全 35 頁の作成を担当）

『「日本語リテラシーⅠ」指導要領 2024 年度版』（1～65 頁の作成を担当）

『「日本語リテラシーⅠ」教材集 2024 年度版』（1～16、42～72 頁の作成を担当）

大学教務システムが Teams から WebClass へ移行されることに伴い、『「日本語リテラシーⅠ」指導要領 2024 年度版』では、内容の一部を新システムの操作方法を盛り込んだものに刷新する作業にも追われた。

また、「日本語リテラシーⅡ」第 14～15 回用の輪読教材のリニューアルも実施した。すなわち、前年度までは福澤諭吉『学問のすゝめ』のオリジナル現代語訳を使用してきたが、学生が福澤の原典そのものを輪読できるようにするために原典の初編・二編・十二編を教材用に編集する作業を行った。

加えて、年度末で部会長職 10 年任期満了を迎えるため、この 10 年間で収集した論理的表現力に関する諸資料の整理・アーカイブ化に着手し、直近３年分を完了させた。

（2）古代ギリシアにおける市民教育に関わる研究

弁論術教育に関する古典ギリシア語原典史料の蒐集・整理作業の一環として、古代ギリシア人が日常生活で使っていた、いわゆる金言・格言の中に該当する言及がないか探すと同時に、見出した文言の後世への継承に関しても考察を進めた。

2　その他の事項

（1）古典ギリシア語教科書の一部大幅改訂

言語系科目「西洋古典語の世界」では独自に作成した教科書を使用してきたが、その教科書の一部、とりわけ動詞の単元に関する部分を、学生の理解をより促進させるために、大幅改訂した。

（2）地域科学研究所紀要『産業研究』論文の査読１編

3　次年度以降の計画・抱負

前年度と同一テーマが最重要課題となる。高等教育での教育研究では部会長職を退任したが、一部会員として日本語リテラシー科目の強化充実に努めると同時に、諸資料のアーカイブ化も継続する。さらに、古代ギリシア研究の面でも、弁論術教育に関わる史料のさらなる蒐集・整理作業を進めていきたい。